

広島県感染症発生動向月報

[広島県感染症予防研究調査会]
(平成22年6月解析分)

1 疾患別定点情報

(1) 定点把握(週報)五類感染症

平成22年5月分(平成22年5月3日～5月30日:4週間分)

No	疾患名	月間発生数	定点当り	過去5年平均	発生記号	No	疾患名	月間発生数	定点当り	過去5年平均	発生記号
1	インフルエンザ	138	0.30	1.24		10	百日咳	32	0.11	0.13	
2	RSウイルス感染症	29	0.10	0.05		11	ヘルパンギーナ	83	0.29	0.27	
3	咽頭結膜熱	173	0.60	0.59		12	流行性耳下腺炎	453	1.57	0.82	
4	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	282	0.98	1.82		13	急性出血性結膜炎	4	0.05	0.02	
5	感染性胃腸炎	1,948	6.76	6.03		14	流行性角結膜炎	95	1.25	1.24	
6	水痘	589	2.05	1.99		15	細菌性髄膜炎	3	0.04	0.01	
7	手足口病	581	2.02	0.58		16	無菌性髄膜炎	7	0.08	0.04	
8	伝染性紅斑	36	0.13	0.25		17	マイコプラズマ肺炎	12	0.14	0.28	
9	突発性発しん	136	0.47	0.59		18	クラミジア肺炎	0	0.00	0.00	

(2) 定点把握(月報)五類感染症

平成22年5月分(5月1日～5月31日)

No	疾患名	月間発生数	定点当り	過去5年平均	発生記号	No	疾患名	月間発生数	定点当り	過去5年平均	発生記号
19	性器クラミジア感染症	61	2.65	2.05		23	メチシリン耐性黄色ブドウ球菌感染症	100	4.76	5.11	
20	性器ヘルペスウイルス感染症	17	0.74	0.85		24	ペニシリン耐性肺炎球菌感染症	36	1.71	1.69	
21	尖圭コンジローマ	12	0.52	0.75		25	薬剤耐性緑膿菌感染症	3	0.14	0.13	
22	淋菌感染症	19	0.83	0.86							

「過去5年平均」:過去5年間の同時期平均(定点当り)
報告数が少数(10件程度)の場合は発生記号は記載していません。

急増減疾患!!(前月比2倍以上増減)

急増疾患 ヘルパンギーナ(38件 83件)
急減疾患 RSウイルス感染症(86件 29件)
急減疾患 マイコプラズマ肺炎(26件 12件)

発生記号(前月と比較)

急増減			1:2以上の増減
増減			1:1.5～2の増減
微増減			1:1.1～1.5の増減
横ばい			ほとんど増減なし

定点把握対象の五類感染症(週報対象21疾患,月報対象7疾患)について,県内178の定点医療機関からの報告を集計し,作成しています。

	内科定点	小児科定点	眼科定点	STD定点	基幹定点	合計
対象疾病No.	1	1～12	13, 14	19～22	15～18, 23～25	
定点数	43	72	19	23	21	178

2 一類・二類・三類・四類感染症及び全数把握五類感染症発生状況

類別	報告数	疾患名(管轄保健所)
一類	0	発生なし
二類	37	結核(西部保健所(2),西部東保健所(2),東部保健所(7),広島市保健所(19),呉市保健所(3),福山市保健所(4))
三類	20	細菌性赤痢(1)(広島市保健所),腸管出血性大腸菌感染症(19) O157(10)(広島市保健所), O121(1)(広島市保健所), O26(6)(西部東保健所(1),広島市保健所(5)), O103(1)(広島市保健所), O血清型不明(1)(東部保健所)
四類	7	E型肝炎(1)(広島市保健所), A型肝炎(4)(西部保健所(1),呉市保健所(2),福山市保健所(1)), マラリア(1)(東部保健所), つつが虫病(1)(西部保健所)
五類全数	10	ウイルス性肝炎(B型)(1)(広島市保健所), 梅毒(1)(広島市保健所), 後天性免疫不全症候群(3)(西部保健所(1),東部保健所(1),広島市保健所(1)), 麻しん(3)(西部東保健所(1),広島市保健所(2)), アメーバ赤痢(1)(広島市保健所), 風しん(1)(広島市保健所)

3 一般情報

(1) 腸管出血性大腸菌感染症について

O157をはじめとする腸管出血性大腸菌感染症が、4月までは県内で3件でしたが、5月に19件と急増しており、例年、夏期に患者数が増加するため注意が必要です。

これから夏休みに入ると、バーベキュー等をする機会が多くなりますが、生焼けの肉や箸に付いた菌によっても感染しますので、生肉を触る箸と食べる箸は必ず分けて使用するようしましょう。

病原体	腸管出血性大腸菌O157, O26, O111, O128など
症状	無症状のもの、軽い腹痛や下痢だけで治るもの、頻回の水様便、激しい腹痛、血便を起すもの、更には重篤な合併症を起こして時には死に至るものまで症状には幅がありますが、多くの場合、3～8日の潜伏期間の後に、頻回の水様性下痢で発病し、更に激しい腹痛、血便を伴います。これらの症状がある場合、溶血性尿毒症症候群(HUS)や脳症などの合併症を発症し、重症化することがあるので、子どもや高齢者は特に注意が必要です。
感染経路	飲食物を介する経口感染がほとんどで、菌に汚染された飲食物を摂取することで感染します。また、感染力が非常に強いので、患者や保菌者の便からの二次感染もしばしば起こります。
予防方法	<ul style="list-style-type: none"> 手洗いの励行とともに、食品は衛生的に取り扱い、調理時には器具を洗浄消毒してください。 水道水を使用し、井戸水を使用する場合は、塩素消毒を行ってください。 食品は、75℃以上で1分以上、十分加熱調理してください。 レバー等の食肉を生で食べることは控えてください。

(2) 日本脳炎について

日本脳炎は、日本脳炎ウイルスに感染した蚊によって伝播される病気で、6～16日間の潜伏期間後に、数日間の高熱、頭痛、嘔吐などで発熱し、引き続き中枢神経系障害(脳の障害)が生じます。

大多数の方は、無症状に終わりますが、脳炎を発症した場合20～40%が死亡に至るといわれています。

これから暑くなり、蚊が多くなる季節になります。予防のために予防接種を受けましょう。

日本脳炎の定期予防接種の積極的な勧奨について

日本脳炎については、平成17年5月より従来使用していた旧ワクチン(マウス脳による製法のワクチン)による定期予防接種の積極的な勧奨を控えることとしていましたが、この度、新ワクチン(乾燥細胞培養ワクチン)について、生後6か月～90か月未満の方(平成22年度については、3歳児に対する初回接種)に対して積極的な勧奨を行うこととされました。

予防接種の具体的な手続き等に関するお問い合わせは、各市(広島市は区)町の保健センター等で受け付けています。